

令和7年 年頭のご挨拶 理事長 平野 将告

明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで清々しい新年をお迎えのことと存じます。

今年の干支、乙巳(きのとみ)には「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」という意味があるとのこと。

今日の車体整備業界は、職人の勘だけが物を言う時代は過ぎ「車両の高度化への対応力」や「コンプライアンスの遵守」等がこれまで以上に求められるようになってきています。

岐車協は今年で発足から69年。先人からのバトンを受け継ぎあらゆる時代の波を経験しながら、世代を越えて皆様と絆を深め業界の発展を目指して活動しています。

この1年も柔軟性を持ちながら生き活きと、益々の発展に向けて共に取り組みましょう。

さて、「特定整備認証」が令和6年4月1日より本格施行されました。

猶予期間の4年間、各理事・各委員会・事務局で車体整備士取得をはじめとする認証取得支援を行い、皆で助け合いながら様々なハードルを乗り越えてきた結果、取得を希望するほぼ全ての事業所において認証の取得が実現しました。

全国の単組の中でも高い取得率です。ご存じの通り「特定整備認証」は国交省も本腰を入れて取得を推進している事業です。

次世代車の作業を行うにあたり必須の資格となりますので、岐車協としては今後も引き続き認証の取得を推奨してまいります。

そして「指数対応単価の適正化に向けた団体交渉」においては、現在日車協連での団体交渉が進んでいます。

昨年5月に日車協連が行った記者会見は、業界のみならず各メディアのニュースにも取り上げられました。

国交省や金融庁、公正取引委員会等の各機関による協力のもとで漕ぎつけたこのステージは、我々の技術力や労働への対価の結晶ともいえる指数対応単価を、現在の経済情勢や実態に沿った適正値へと見直される好機であり車体整備業の社会的地位向上に繋がるものとも捉えることができます。

また、日車協連による独自工数の策定に向けた計画もされています。

今日の社会の雰囲気からも、工賃の適正化に向けた動きはさらに加速するものと思われます。

ただし、実際の適正な金額交渉にはエビデンスの提示をはじめとした交渉スキルを備えることが必要ですので、そのアドバイスが出来る環境が整えられればと考えています。

そうした業界の現状から伝えたいのは、今なお続く世界情勢による物価やエネルギー価格の高騰、特定整備認証の本格施行、コンプライアンス遵守への対応、新型車の精密機器化による整備知識のアップデート等、対処すべき課題が多い中ではありますが、先にも述べた通り今まさに「車体整備業界」において仕事の環境を整えることができる機運が高まっており、あらゆる側面において大きな転換期が訪れているということです。

そんな今だからこそ「岐車協に入っていて良かった」と、これまで以上にスケールメリットの魅力を心から実感していただけることを確信しています。

志を共にする組合員同士で培ってきた「岐車協の力」で寄り添い支え合いながら、車体整備業界の明るい未来へと繋げていければ幸いです。

本年も当組合員・賛助会員の皆様にとって良き一年でありますよう心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。